日本の怪異・妖怪大事典

にほんのかいいようかいだいじてん

朝里樹 監修
さがわゆめこ 画
グラフィオ 編

くねくね

出没場所

- 田んぼ、川岸

目撃情報

- 人間のような形をした白（または黒）の影
- くねくねと気味悪いうごきをする

正体は「ワカらなイホうガイい」

これは、友だちのN君と、彼のお兄さんの話です。N君のお兄さんは、あれ以来ずっと心の病で病院に入院しています。

N君とお兄さんが、夏休みに田舎に帰って、川沿いの田舎道を歩いていた時のことです。川のむこう岸に、白い服を着た人がいて、腕や足や胴をありえない方向にくねくねと曲げながら、奇妙な踊りをおどりはじめました。N君は、その踊りを少しみただけで気分が悪くなったので、思わず目をそらしたそうです。

N君のお兄さんは、目をそらすことなく、ソレをじっとみつづけてしまいました。お兄さんの顔は真っ青になっていき、冷や汗をびっしりかきはじめます。

「ねえ、あれはなんなの!?」

N君は、お兄さんにたずねました。すると、お兄さんは、たどたどしくこういったそうです。

「ワカらなイホうガイぃ……」

くねくねうごく物体 正体不明の不気味さ

くねくねは、二〇〇三年ごろにインターネット掲示板で報告があがった怪異だ。くねくねと体をくねらせる何者かで、色は白または黒。夏の田んぼや川辺で目撃されるが、その姿を一瞬みる程度ならとくに問題はない。

じっくりと観察すると、その正体が理解できるのだという。しかし、理解したとたんに、精神に異常をきたしてしまう。だからこそN君のお兄さんは、最後の理性で「わからないほうがいい」と弟につたえたのだ。

「爺」「婆」系の怪異一気見せ！

「△△ババア」や「○○ジジイ」などと呼ばれる怪異は、たくさんいる。とくにババア系が多彩で、「足が速い」といった高い運動能力をもつものが多い。

三十センチババア

身長30cmほどの老婆。足がみえないほど高速で走り、猛スピードで車を追いこす。

スケボーババア

スケボーに乗って出現。飲酒運転している人に並走し、その魂を奪っていく。

ジェットババア

ジェットエンジンなみの超速で走り、高速道路の車を軽々と追いぬいていく。

サイクリングばあちゃん

夜な夜な公園でサイクリングしているびしょぬれの老婆。公園の池で死んだ霊ともいわれる。

バスケばあちゃん

バスケットボールのドリブルをしながら出現。バイクにむかってボールをパスして事故をおこす。

一尺じいさん

身長が一尺（約30cm）の老人。道路のわきにあらわれてニコニコするが、とくになにもしない。

紫爺

便所に潜み、子どもを便器に引きずりこむ。好きな色をきかれて紫とこたえると解放される。

アオゲジジイ

学校にあらわれる、青い髪の毛の老人。アカゲババアという怪異と夫婦といううわさもある。

ジャンピングジジイ

すごいジャンプ力の老人。人や車を軽々と飛びこえる。ジャンピングババアもいる。

ハッスルじいさん

リヤカーをひいて山道を爆走。猛スピードで車を追いこしていく。

きさらぎ駅

出没場所

- 普段つかっている電車

目撃情報

- 存在しない駅名の無人駅
- 帰りの電車がない

迷いこんだら帰れない異界駅

ある女性が、インターネットの掲示板に相談を書きこんだ。

彼女がいうには、今のっている電車が駅に到着せず、やっと停車したのは「きさらぎ駅」という知らない駅だったそうだ。そこは無人駅で、周囲には店も民家もみあたらないという。

掲示板をみていた人が、彼女にアドバイスを送る。

「そんな駅は存在しないようだ」

「警察に電話できる？」

「線路にそって歩いてみては？」

女性は、警察に電話をしたが、いたずらだと思われ切られてしまったそうで、線路ぞいに歩くことにしたようだ。

しばらくすると女性から「とおりかかった車にのせてもらえた」と報告があった。だがその後、「運転手がおかしい。わたし、隙をみて逃げます」というコメントを最後に、彼女の書きこみはとだえてしまった。

リアルタイムに進行 恐怖の一部始終

二〇〇四年一月の深夜、インターネット掲示板に、女性からの書きこみが実際にあった。彼女がした「きさらぎ駅」という実在しない駅名が、この怪異の代名詞としてひろく知られることになる。なお「鬼」という漢字は「鬼」とも読む。

女性は、「太鼓や鈴のような音が近づいてくる」「片足の老人がでてきて、すぐ消えた」など、奇妙な体験も書きこんでいる。おそらく、この世ではない「異界」に迷いこんでしまったのだろう。